はるかなる憧憬(あこがれ) チベット

―東北大学所蔵　河口慧海チベット請来品の全貌―

はるかなる西蔵

仏教美術資料

民俗資料

標本類

東北大学総合学術博物館

河口慧海とチベット行

河口慧海については手元にある二，三の辞書を引くと簡単な解説がつけられているが，一般には彼の名前はそれほど知られていない。慧海の伝記は，彼の甥にあたる河口正氏が著した『河口慧海―日本初のチベット入国者』（春秋社　昭和36年－1961）に詳しい。

慧海は，慶応2年（1866）1月12日に現在の大阪府堺市に桶樽を製造する家に生まれ，明治13年（1880）15歳のときに『釈迦一代記』を読んだのが機縁で終生厳しい戒律を自らに課することになる。明治21年（1888）23歳で東京に行き，哲学館（東洋大学の前身）に入り勉学に励み，25歳のとき本所の黄檗宗五百羅漢寺住職から得度を受け，慧海仁広と名付けられ，五百羅漢寺住職となる。26歳で哲学館を修学し，住職を辞し僧籍を返還するが，翌年27歳で僧籍を復し，京都の宇治黄檗山別峯院で大蔵経を読破する。このとき異訳が多く難解な漢訳仏典の原形を伝えるチベット大蔵経，さらに本国インドにおいてはすでに亡びて久しいサンスクリット語仏典の探求，収集とそれらを請来するためにチベット行の意志を固める。

第1回チベット行は，明治30年（1897）6月26日神戸港を出帆し，同36年（1903）5月20日神戸に帰港するまで6年間に及んだ。慧海32歳から慧海38歳までである。慧海が単身で自然の厳しいヒマラヤ山脈を越え，鎖国体制のチベットに入国を果たしえたことは、慧海のチベット大蔵経を伝える不退転の決意があったればこそである。そのチベット行を書き留めた『チベット旅行記』（講談社学術文庫1－5　昭和53年，底本『西蔵旅行記』博文館版　明治37年－1874）は感動をもって読まずにはおられない。

第2回チベット行は，帰国後1年5ヶ月もたたない明治37年（1904）10月11日再び神戸港を出て，大正4年（1915）9月4日に神戸港に着くまで11年間（39歳－50歳）の長きに亘った。第2回チベット行は，第1回でチベット語を習得し，チベット経本を得ることはできたが，サンスクリット語の学習とチベット大蔵経の収集と請来は達せられなかったとして断行されたものである。この第2回の旅行において，慧海はサンスクリット語の研究とサンスクリット語仏典の収集に努める一方，チベットのギャンツェでダライ・ラマ13世下付のチベット大蔵経を入手し（大正4年1月28日），またシカツェでチベット第2法王パンチェン・ラマ6世からチベット大蔵経を受取り（同年2月1日），所期の目的を達成したのである。第2回旅行では理学博士伊藤篤太郎氏の依頼で高山植物を多数採集しているのも特筆される。第2回旅行のことは（講談社学術文庫　昭和56年－1981，底本『第2回チベット旅行記』河口慧海の会発行　金の星社発行　昭和41年－1966）に記録されている。

慧海のそれらの旅行記は，的確な記述をもってチベット研究の第一級の基本的文献としてまた学術的資料として世界的に評価されている。

大正4年（1915）9月に帰国後，慧海は仏教の正しい理解と普及に努め，三たび黄檗宗の僧籍を返上し、釈尊主義の純粋仏教を宣揭する。大正15年（1926）1月12日還暦に際し還俗を発表する。この年大正大学のチベット語教授に着任し，翌昭和2年（1927）に在家仏教修行団を設立するなどチベット語の研究を深め，専ら在家仏教の普及にあたる。60歳過ぎてなおチベット大蔵経を入手すべく再々中国に渡航する。後年，昭和11年（1936）に『正真仏教』を古今書院から刊行し，同15年（1940）には大東出版社から『西蔵文典』を刊行するなど，わかりやすい仏教の普及とチベット語の研究を亡くなるまで続けた。昭和20年（1945）2月16日，脳溢血で倒れ，24日に死去した。享年80歳であった。

河口慧海　65歳

9
寂静四十二尊
Forty-two peaceful divinities
727mm×532mm

10
寂静四十二尊配置図
Forty-two peaceful divinities
324mm×248mm（紙寸）

55
釈迦牟尼仏
Sakyamuni-Buddha
83mm（総高）

56
獅子坐文殊菩薩
Vadisimha-
Manjughosa
68mm（総高）

57
弥勒仏
Maitreya
141mm（総高）

58
文殊菩薩
Manjughosa
226mm（総高）

83
ネパールの金剛阿闍梨(vajracarya)が
灌頂を授ける時につける冠(？)
Brass ceremoniar crown
279mm(高)

84
軍持
Vase
175mm(高)×109mm(鈷張)

85
閼伽七器
Water offering cups
7.8～8.0mm(口径)

87
燈明台
Butter lamp
119mm(高)

86
洒水器(白法螺)
Conch-shell for water offering
82mm(全長)